

臨時特別号



たがら

発行 平成28年11月

練馬区立田柄小学校

校長 清水 誠

http://www.tagara-e.nerima-ky.ed.jp

平成28年度 学力調査(5年生・6年生)ならびに体力調査の結果のお知らせ

今年度の学力調査ならびに体力調査の結果をお知らせいたします。今後は、調査結果をもとに、本校児童の学習や体力の状況に応じた授業や取組を実施していきます。以下は、学力調査、体力調査の結果ならびに分析、改善策です。

6年生 全国学力・学習状況調査(4月19日実施)

<国語>

網掛けの部分は都の平均値を上回った項目です。

国語A (主として知識)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	国語全体
28年度 田柄小		72.0	79.0	76.9	63.1	67.7
東京都平均		81.6	77.2	79.9	71.2	73.8
全国平均		79.2	72.8	78.5	71.1	72.9

国語B (主として活用)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	国語全体
28年度 田柄小	55.9	49.8	56.8	67.7		59.6
東京都平均	55.3	52.7	55.2	70.7		59.8
全国平均	54.7	51.1	53.4	69.3		57.8

<算数>

網掛けの部分は都の平均値を上回った項目です。

算数A (主として知識)	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	算数全体
28年度 田柄小			81.7	73.3	75.9
東京都平均			83.5	77.6	79.4
全国平均			82.5	75.4	77.6

算数B (主として活用)	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	算数全体
28年度 田柄小		41.8	57.0	71.5	48.7
東京都平均		42.8	58.8	72.6	49.8
全国平均		40.9	53.3	69.5	47.2

<各教科の結果考察と改善策>

【国語】 A問題では、「書く能力」以外は、すべての観点で都の平均を下回りました。学年全体として、今後基礎・基本の定着に向けて、日々の授業で文章を正確に読み取らせたり、的確に聞き取ったりする指導の機会を増やしながら、「読む力」「話す・聞く力」の向上を図っていきます。

B問題では、「関心・意欲・態度」「書く能力」で都の平均を上回りました。これは、昨年度とは全く逆の結果で、調査をする学年によっては得手不得手の差が認められることが分かります。知識を活用できるかを見るB問題でも「読む力」「話す・聞く力」に課題が見られることを踏まえ、学習活動の中で何度も声に出して読んだり、自分の考えを積極的に話したりする指導に重点を置きながら、この結果に対応していきます。

【算数】 A問題とB問題のすべての観点で、都の平均を下回る結果となりました。今後とも、習熟度別少人数での指導を充実させ、個々の能力や興味・関心に応じた学習を展開することで、一人一人のよさを活かし資質・技能を向上させるよう努めていきます。A問題とB問題両方の結果に共通することに、問題の意味を的確にとらえて回答したかという課題が見られます。これは算数科だけの問題ではなく、国語科の「読む能力」に関わる課題でもあります。題意を正確に読み取らせてから問題に取り組ませるなど、日々の授業にも工夫を重ねながら、この課題に対応していきます。

5年生 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査（7月7日実施）

A 教科の内容

網掛けの部分は都の平均値を上回った項目です。

国語	関心・意欲・態度	思考・判断・表現 (話す・聞く)	技能 (書く)	知識理解 (言語)	読む	A全体
28年度 田柄小	89.4	85.1	49.5	75.5	81.9	76.9
東京都平均	90.6	82.3	54.0	78.0	72.9	76.5
社会	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識理解	読む	A全体
28年度 田柄小	93.1	60.0	79.6	76.8		74.6
東京都平均	91.3	58.2	81.0	69.9		72.9
算数	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識理解	読む	A全体
28年度 田柄小	83.0	59.8	71.3	73.6		71.3
東京都平均	82.6	54.8	64.9	72.6		67.7
理科	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識理解	読む	A全体
28年度 田柄小	94.1	77.2	46.3	58.5		64.6
東京都平均	94.8	74.2	48.8	56.4		63.5

B 読み解く力に関する内容

網掛けの部分は都の平均値を上回った項目です。

国語	取り出す力	読み取る力	解決する力	B全体
28年度 田柄小	84.0	75.5	41.5	67.0
東京都平均	78.2	74.1	33.1	61.8
社会	取り出す力	読み取る力	解決する力	B全体
28年度 田柄小	80.9	68.1	72.9	73.1
東京都平均	80.0	65.5	69.7	71.7
算数	取り出す力	読み取る力	解決する力	B全体
28年度 田柄小	78.2	25.0	34.6	45.9
東京都平均	70.6	25.0	33.3	42.9
理科	取り出す力	読み取る力	解決する力	B全体
28年度 田柄小	68.1	66.0	53.7	62.2
東京都平均	66.1	60.5	51.1	59.2

< 各教科の結果考察と改善策 >

- 【国語】 B問題は全ての観点で都の平均を上回りました。今年度は、学んだことを活かすという点で、比較的良好な結果が得られました。一方で、A問題の「書く技能」や「言語に関する知識・理解」は課題であることが分かります。書くことについては、今後作文などについて個別の指導を充実させたり、主語と述語を明確にした文章の書き方を普段から意識させるなど、重点的に指導していきます。「言語に関する知識・理解」についても、漢字の読み書きについて繰り返し指導しながら、知識の積み上げを進めていきます。
- 【社会】 A問題の技能以外は、全て都平均を上回りました。技能に関しては、地図帳などを日々の授業で活用するなどして、今後とも力を伸ばしていきます。その他の観点についても、教科書だけでなく、補助プリントや資料集などを使う場面を増やしながら、向上を図っていきます。
- 【算数】 A問題全体としては都の平均を上回りました。算数習熟度別指導の効果が上がってきていることが伺えます。特に技能面では都平均と6ポイントの差があり、個に応じた指導の成果が見て取れます。一方で、B問題の「読み取る力」では、都平均との差は見られませんが、他の観点との著しいポイント差が認められます。各設問の難易差も考慮しなければなりません。各設問の難易差も考慮しなければなりません。「読み取る力の全体的な低下」とも捉えられます。今後とも、個に応じたし習熟度別の指導を充実させながら、この課題の解決を図っていきます。
- 【理科】 A問題の「技能」は都の平均を下回りました。基礎的な観察・実験の技能については、実際に実験等をする機会を増やすなどして技能の向上を図っていきます。関心・意欲態度の観点にも、課題が見られます。暗記ではなく、具体的な活動や体験を授業に取り入れながら、学ぶ意欲や内容への関心を高めていきます。B問題では、全ての観点で都平均を上回る結果となりました。今後とも、観察や実験に考察を加えるなど、自らの考えを広げたり深めたりする活動を授業に取り入れながら、読み解く力のより一層の向上を図っていきます。

平成28年度 体力調査(1年生～6年生)の結果のお知らせ

練馬区立田柄小学校

今年度も、体力運動能力調査として「体力テスト」を実施しました。区の平均値と比較し、本校の結果についてお知らせします。また、個人の結果については、個人面談の際に担任よりお知らせします。

1 体力合計点の平均比較

【実施学年】1年～6年

【実施日】平成28年 5月～6月

学年	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
田柄小	27.3	28.3	39.0	40.8	40.8	40.0	48.8	50.2	54.3	54.9	56.2	58.3
練馬区	29.3	29.3	37.4	37.2	42.7	43.4	49.1	49.9	54.6	56.1	60.0	61.5

網掛けの部分は、練馬区の平均と比較し、本校の合計点の平均が上回った学年です。

2 各運動種目の平均比較

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
握力(kg)	8.7	8.1	11.1	10.9	13.7	12.6	14.7	15.1	17.5	16.3	20.0	19.7
区平均	9.0	8.5	10.9	10.2	12.5	11.9	14.5	13.7	16.5	16.4	19.3	19.2
上体起こし(回)	10.2	11.0	14.5	14.9	15.2	13.4	17.4	18.0	18.9	18.4	19.9	20.1
区平均	11.1	10.8	14.3	13.5	16.1	15.7	18.5	17.9	20.1	19.3	21.9	20.7
長座体前屈(cm)	27.2	33.0	28.8	32.8	32.4	36.2	36.4	38.9	37.2	41.3	36.5	41.8
区平均	24.9	27.9	27.0	30.2	28.5	32.8	31.0	35.2	33.0	37.8	35.4	41.0
反復横跳び(回)	23.4	24.2	31.5	30.6	32.1	29.7	37.2	36.8	40.1	39.3	41.8	40.2
区平均	26.9	25.8	31.1	29.6	34.1	32.2	38.2	36.4	42.1	40.2	45.6	43.2
20mシャトルラン(回)	14.1	11.8	29.1	20.6	26.1	20.2	37.4	28.5	55.0	39.5	52.8	36.5
区平均	17.2	14.1	27.8	20.5	35.3	26.5	44.4	33.0	53.2	40.5	60.1	46.1
50m走(秒)	11.3	11.9	10.1	10.6	10.2	10.5	9.6	9.9	9.1	9.3	8.8	9.2
区平均	11.5	11.9	10.5	10.9	10.1	10.4	9.5	9.9	9.2	9.5	8.8	9.1
立ち幅跳び(cm)	101.0	94.5	116.5	110.0	116.4	109.9	130.3	124.7	136.0	126.3	144.4	135.9
区平均	111.0	103.4	122.0	114.8	131.1	124.6	140.9	133.6	150.5	143.7	160.2	153.1
ソフトボール投げ(m)	6.9	4.9	11.2	7.9	14.5	9.0	17.3	10.9	22.8	12.9	23.8	14.1
区平均	7.8	5.3	11.6	7.1	14.9	9.0	18.6	11.1	22.0	13.3	25.7	15.2

網掛けの部分は、練馬区の平均と比較し、本校の平均の偏差値が上回った種目です。

3 分析と考察

「体力テスト」では、走・跳・投等の基礎的な運動能力を測定すると共に、それぞれのテスト項目で、基本的な体力要素となるスピード、全身持久力、瞬発力、巧緻性、筋力、筋持久力、柔軟性等についても評価します。

テスト項目	基礎的な運動能力	体力要素	運動の特性 (体育の学習等で高めていく力)
50m走	走	スピード(すばやく移動する能力)	すばやさ・力強さ
持久走 20mシャトルラン		全身持久力(運動を持続する能力)	ねばり強さ
立ち幅跳び	跳	瞬発力(すばやく動き出す能力)	力強さ・タイミングの良さ
ソフトボール投げ	投	巧緻性(運動を調整する能力) 瞬発力(すばやく動き出す能力)	タイミングの良さ 力強さ
握力	/	筋力(大きな力を出す能力)	力強さ
上体起こし		筋力(大きな力を出す能力) 筋持久力(筋力を持続する能力)	力強さ ねばり強さ
長座体前屈		柔軟性(大きく関節を動かす能力)	体の柔らかさ
反復横跳び		敏捷性(すばやく動作を繰り返す能力)	すばやさ・タイミングの良さ

本校の結果から見えること

今年度の本校の結果を見ると、どの学年においても、長座体前屈は区の平均値を上回っていました。体の柔らかさ(柔軟性)は十分に身に付いていることが分かります。特に課題となるのは、立ち幅跳びとソフトボール投げです。どちらの項目も、区平均値より低い学年が多くみられます。この2項目が低いのは、ここ数年の傾向です。立ち幅跳びは、足の筋力を使ってできるだけ遠くに跳びます。助走をしないので、縮んだ筋肉を思い切り伸ばすことで遠くに跳ぶことができます。しかし、足だけで跳ぶことはできず、腕を大きく振ったり、まっすぐ前を見たりと全身を連動させてタイミングよく跳ぶ力が必要です。ソフトボール投げも同じように、腕だけでボールを投げるのではなく、体のひねりを使った全身の動きが必要となります。20mシャトルランについても、区平均より数値が大きく下回っている学年があります。粘り強く運動を持続していく力を身に付けていく必要があります。

子供たちの体力向上のために

子供たちの遊びを見ていると、おにごっこやサッカーなど走る遊びを好んで行っています。ドッジボールなどボールを投げる遊びも好きな子が多いようですが、実際の所はその経験に片寄りがあります。また、体力テストのボール投げで行うような小さなボールを投げる機会も多くはないようです。体力を高めるには、まずは運動経験が重要です。走るだけ、投げるだけなど、一つの動きを集中的に行うのではなく、様々な動きや複合的な動きを数多く経験しながら、総合的に体力を高めていくことが大切です。また、気候によっては休み時間に外に出たがらない子供たちもいます。室内での遊びに偏らず、外遊びの習慣を身に付けることが最も大切なことです。



本校では、体育の時間はもちろん、昨年度より「たがら元気アップタイム」に取り組んでいます。この活動は、まさに子供たちが様々な運動遊びを経験できる場と時間を確保するために実施しています。例えば「ゴム段跳び」や「バンブーダンス」などの跳の運動や、「ドッジビー」などの投の運動、さらに「すもう」や「竹馬」「平均台」など普段なかなか取り組む機会の少ない遊びも取り入れています。

体力を高めることは、生涯にわたって健康で明るい生活を営むための基盤となります。ご家庭でもぜひ、これらの運動遊びを通して運動に親しめる機会を作ってみてください。

